

シンポジウム報告

第36回国際応用動物行動学会 (ISAE) 参加報告

瀬尾 哲也

帯広畜産大学 食糧生産科学講座 家畜生産科学分野

1. 開催場所

2002年8月6日から10日まで、オランダのリゾート地 Egmond aan Zee にある Zuiderduin ホテルで行われた第36回国際応用動物行動学会へ参加した。近くには伝統的なチーズ市で有名なアルクマールがある。オランダの国土面積も人口もほぼ日本の10分の1程度であるが、山がなく見渡す限り平地が続いている。国土のほぼ全域が海拔100m以下、その3分の1が海面下であるそうだ。車窓からの風景は、牧柵や電牧ではなく、水路で区切られた放牧地に牛、馬、羊が放牧されているのがとても印象的であった。

2. 内容

本大会の主要なピックスは、家畜やコンパニオンアニマルのウェルフェアの評価であったが、養殖魚の知覚・感覚能力、ストレス、ウェルフェアに関してもトピックとして採り上げられた。プレナリー発表4題、口頭発表74題、ポスター発表87題、ワークショップ6題であった。日本からの発表参加者は、15名であった。

家畜のストレス性の評価やアニマルウェルフェアに関する研究では、常同行動の遺伝的要因や迷路やオープンフィールドテストを用いた個体差の研究、さらにはオペラント条件付けを用いて横臥行動や社会行動の欲求を明らかにしようとする研究、社会行動による農家牛群のウェルフェアの評価、心拍数やACTHおよびコルチゾル濃度を指標としたストレス性の評価といった研究が発表された。さらに家畜や実験動物の同

居群の構成、飼育面積、新奇物設置といった側面からの環境エンリッチメントに関するものもあった。

3. エクスカーション

設定された6つのコースのうち、酪農家を見学するコースに参加した。レリー社の搾乳ロボットが2台導入されたフリーストールに隣接した放牧地があった(図1, 写真1)。放牧地への出入り口にはセレクションユニットが設置してあり、餌槽には青刈り牧草が給与されていた。放牧地の土壌は非常に軟らかく、人が飛び跳ねただけでも弾力性が感じられた。牛舎内にいた搾乳牛は少し痩せている感じがした。

4. バンケット

貸切りのボートで運河をクルージングというとても



写真1 見学した酪農家のフリーストール牛舎 (写真中央: 搾乳ロボット)

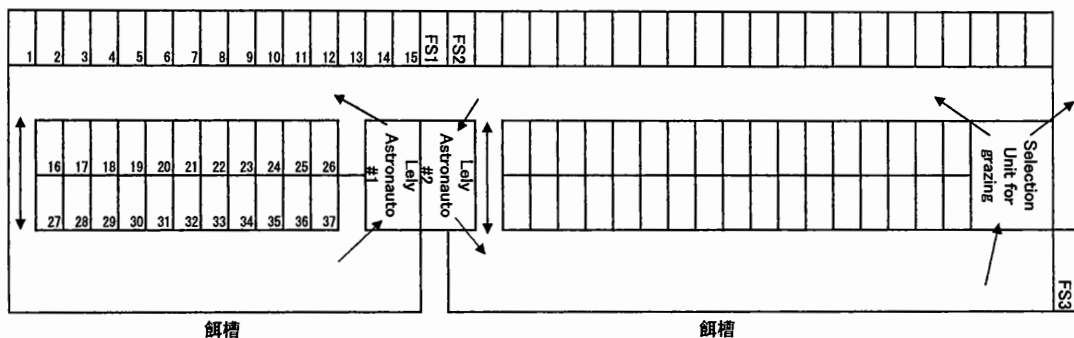


図1 見学した酪農家のフリーストール牛舎概略図 (酪農学園大学 森田茂氏提供)  
FS: フィールドステーション

豪華で優雅なものであった。バイキング形式の料理は床からせり上がってくる。外にはオランダの象徴である風車と放牧地がみえる。大変感激した。

## 5. その他

口頭発表での各人の持ち時間の終了合図は、ランプやブザーで行われるのが通常であったが、本大会では音楽（インストルメンタル）が会場に流れ始め、次第

に音量を増していくため質問や回答を中止せざるを得ない状況になる。そのため、通常の学会でよくあるようなスケジュールが遅れていくことはなかった。音楽で無理やり質疑応答を終了させるのは賛否両論あると思うがとても新鮮であった。

なお、2005年は日本で本学会の大会が開かれることが決定している。